



発行所：日本合板商業組合

〒101-0045 東京都千代田区神田錦治町3-5-4

TEL：03-5256-9080

<https://www.nichigoshonet/>

e-mail：jpwa@oboe.ocn.ne.jp

Japan Plywood Wholesalers Association

TOPIC | 1 | スマートハウスに新たな潮流 家族に寄り添うテクノロジー

スマートハウスに新たな潮流が生まれ始めている。利便性、効率性だけを追求するのではなく、家族に寄り添い、絆を深め、関係をより良くしていくために、テクノロジーを活用していこうという動きだ。

規格住宅のボランタリーチェーン事業「ジブンハウス事業」を展開するJIBUN HAUS.は、テクノロジーが人や自然と調和して生活をそっとサポートし、家族の想いをつないで絆を深める家を目指し2021年から「muihaus.」を展開している。その「muihaus.」の第1号となる実棟を2022年11月、ジブンハウス加盟店の笹川工建(笹川俊一 代表取締役)が佐賀県多久市で建設した。

第1号実棟では、mui Lab(京都市)のスマートハウス機器「muiボード」と、デジタル版の柱「柱の記憶」を導入した。それぞれ突板で表面を覆った木製インターフェースで、「muiボード」は、リモコンとして照明やエアコン、音

楽スピーカーなどをコントロールする機能の他、インターネットとつながり天気やカレンダー情報の入手、ラジオ視聴、自然に起床や就寝を促す光源調整、無理なくゆったりとした起床を促す目覚ましタ

イマーなどの機能を持つ。一方、「柱の記憶」は、家族がデジタルペンで書き込んだ落書きや、子どもの身長などをデジタルデータとして記録、蓄積する機能を搭載した。

「muiボード」、「柱の記憶」に始まる様々なプロダクトやサービスを通じて、物質的な豊かさを超えて、心の豊かさを重視したスマートハウス体験ができる住宅として注目が集まりそうだ。



1階のリビング空間の中央に配置された「柱の記憶」。家族の日々の物語を紡ぎながら、その瞬間を記憶。いつでも思い出として引き出すことができる

TOPIC | 2 | エコキュートの付加価値提案が加速

エコキュート(自然冷媒ヒートポンプ給湯機)の付加価値提案が加速している。エコキュートは電気料金の安い夜間に沸き上げを行い、貯湯タンクにお湯を貯めておくことで日中にお湯を使用できる給湯機器。省エネ性やランニングコストの高さで注目を集め、市場拡大が続く。

こうしたなか、付加価値の高いエコキュートの発売が相次ぐ。まず、あげられるのがデジタル化による安全・安心の提案だ。

コロナが2022年6月に発売した「AY5シリーズ」は、大型貯湯タンクを最大限活用し、アプリ操作により停電に備えて満タンまで給湯することができる。また、人感センサーによる見守り機能も付加、入浴者の入浴時間の異常をスマホを通じて、遠方で暮らす家族に知らせる。

パナソニックが専用スマホアプリ「スマホでおふる」に

新たに追加した機能が「エマージェンシー沸き上げ」。あらかじめ大雨や暴風などの情報を選択しておく、災害警報・注意報が発令されている間、タンク内が常にお湯で満水になるよう自動でお湯の沸き上げを続ける。

一方、太陽光発電の売電価格が下がるなかで、太陽光発電システムと連動させる提案も出てきている。ダイキン工業は、太陽光発電システムと連動させる「おひさまエコキュート」を2022年に業界で初めて発売した。基本的に昼間の余剰電力のみで湧き上げを行う。

先の補正予算で創設された「高効率給湯器導入促進による家庭部門の省エネルギー推進事業」では、エコキュート1台に対し、5万円が補助される。魅力ある商品の提案、省エネ意識の高まりや国の支援制度も追い風に、エコキュートの市場はますます拡大しそうだ。

今知りたい情報がここにある

住生活産業のための
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online premium

ハウジングトリビューン オンライン プレミアム

<https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/>